

私は、JARLの会員

JJ1SXA/池

私は、JARL の会員を永く続けている、アマチュア無線をやるなら当然の義務と思って、会員であり続けているが、QSL の交換位がメインだと思っていたが、もう十数年前から、DX はおろか国内 QSO もほとんどやらなくなった、JARL の会員であることに疑問を感じるこの頃だが、やはり、ハムのステータスとしての自負で、会費は払い続けようとも思う。

別稿で、「3密を避けるため、集まれなければ、ネットで会議」という記事を書きましたが、その中で、…「LoTW (Logbook of The World)、TQSL、CLUBLOG、eQSL (The Electronic QSL Card Centre)、OQRS (Online QSL Requests System) 等々、全てパソコンとWi-Fi 環境が無ければ対応できない、これ等の一部を使っている局は240 にもいるようだが、それより何より、これ等の全部を何か知っている局はどれだけいるか？私も、存在は知っているし、内容も少しは勉強したが実際には使っていない(使えていない hi) のが現状だ、もう少し何でも使えるようにしなければいけない。」…こんな内容だ。

再度、勉強しなおして、とりあえず使えるようになったと、自分では思っている hi、ということで、私の理解したところを簡単に説明します。

QSL の交換は今や、ビューローは必要としないシステムが発達している、「eQSL」に登録していれば、電子的に QSL カードの交換ができる、紙のカードが欲しければ、自分で印刷すれば良いのだ。(私は、数年前に登録している)

LoTW にあらかじめ登録・認証を受けると世界中のアマチュア局が無料で利用でき、この LoTW サーバーに登録された QSO データで QSO が確認できれば、QSL カードを受け取らなくても DXCC アワードなどを LoTW で申請できる。

これで QSL カードを提出するペーパー申請より短時間でクレジットされるし、申請料もペーパー申請より低く設定されている。

CLUBLOG は、国内外すべてのログをアップするだけで、DXCC の WKD CFMD 状況から、相手局との QSO データがマッチングしているかどうか、OQRS による QSO リクエストシステムや今後の DX ペディションの予定、ありとあらゆる DX に有用な情報と自局の業績の分析、戦略構築に役立つ情報が提供されます。

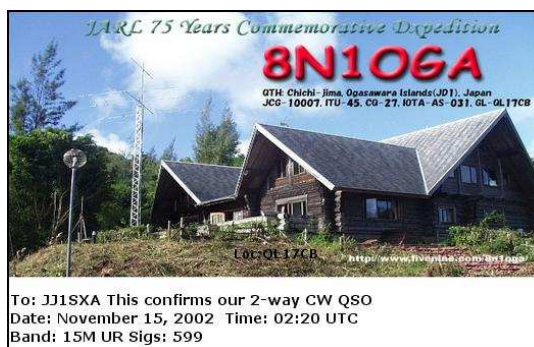
OQRS とは、要するに QSL カードに SASE(返信用封筒)と IRC または 1~2ドル入れて送るダイレクトの手続きを簡素化するために考えられたのでしょう、DX ペディションなどの局が「OQRS」を設定してあると、PeyPal のような電子マネーで相手の返信費用やドネーション(寄付)を送ることが出来る、相手は入金を確認して、PeyPal に登録してある住所に QSL カードを送ってくるという便利なシステムだ。

とにかく便利になった、こんな便利な諸々のシステムは使わなければ損だ！

eQSL で届いた、QSL カード



2000年のQSOだ、21MHzのCWだがこの頃のデータはまだ残っていた



こちらは、2002年のQSOだ、矢張り21MHzのCW



今年（2020年）の、ALL JA



こちらは今年（2020年）の東京コンテスト

eQSLは、とにかく早い、QSOが終わるや否やでカードが届くようだ、ALL JAのカードも東京コンテストのカードも直ぐ届いた。



JJ1SXAのカードのサンプル、QSOのデータは、実際のものに書き換えられる、左のサンプルカードで使用した画像は、eQSLで用意した画像（62種類ある）を使用、右のカードの画像は、任意のオリジナルの画像を使った、無料会員だが、オリジナルの画像を使った。hi